

# 泉のほとり

・顕現後第六主日



今月の詩編 「第三十編」

主よ、あなたをあがめます。  
あなたは敵を喜ばせることなく  
わたしを引き上げてくださいました。

主は「あなたがたがアブラハムの子孫であるなら、アブラハムの業をするはず。しかし、わたしを殺そうとしている。神があなたがたの父であるなら、わたしを愛するはず。あなたは悪魔から出て、自分の父、悪魔の欲望を満たそうとしている」とお語りなりました。

「嘘でも褒めて欲しい」という言葉を聞くことがあります。それを追い求めて生きる人はいないと思いますが、人間の心をよく表している言葉ではないかと思います。人は自分を高く評価してくれる言葉を聞きたいし、自分を高めてくれる言葉なら、事実と違つても喜ぶこともあるかと思います。主イエスに敵対しているユダヤ人たちも、彼らの悲惨な現実を表す真実より、嘘でも自分たちが聞きたい言葉、自分たちを高めてくれる言葉を聞いたなら、キリストを受け入れたでしょう。そのようにして、彼らは神の前でのありのままの自分には目を逸らしてきたわけです。しかし、聖書は、人に取り入るための、嘘でも私たちを嬉しくする言葉を語つていません。

神に取り入るために真実のみを告げ、示し、人を説得しているのです。

主は更に「わたしに栄光を与えてくださるのはわたしの父であつて、あなたがたはこの方について、「我々の神だ」と言つている。だが、あなたがたはその方を知らない」とお語りになりました。彼らの「我々の神」という告白が、彼ら自身、嘘を言つているつもりはないことをご存知の上で、そう語られたのです。それが偽りであると。その告白と実際のあり方が違つてゐるからです。

主イエスは「わたしは、自分の栄光は求めていない。天の父がわたしの栄光を求めておられる」と語られました。「ご自分の栄光を求めない」、そこにこそ「真実」と「偽り」を分別する鍵が示されています。「ご自分の栄光を求めない、主のなさる一つ一つの業」は、この世での栄光、人からの評判のためではありません。「人のため」に悪口を浴びせられても、殺氣が漂う中でも彼らに真実をなし、最後には人の罪

## わたしの日を喜んだ

を償う代償のさざげ物となられ、死なれたのです。栄光ではなく、十字架です。

人々への「悪魔から出た」という主のことばは、單なる言葉だけの忠告や叱責ではありません。「十字架」を伴う、人への御心が表された真実なことばです。私たちに告げ知らされている福音は、聖書に書かれている文字ではありません。その書かれている言葉が指し示しているのは「十字架」を伴うキリストです。それがことばであります。そして、その真実なことばが人に要求していることは「立派なことをしろ」ということではありません。

自分の栄光を求めず、自分を高める言葉や人の評価ではなく、神の御前で、神のことばに照らされる自分自身を加減なく、まことに見ることです。それで、もし実質に違うものがあるなら、それから目を逸らさない。自分の栄光を求めず、キリストが示される自分の真実のみを聞く。その真実さの上に、なお、私たちも人のためのキリストの真実なる業に生きられるよう、神の御名を切に求めることがあります。神は、その者にいかにご自身のよい心とよい業を授けてくださることか。更に、そこに幾万もの人々の慰めの言葉がいかに空しいことかを知るほど、計り知れない神の慰めがあることを示すうとしておられるのです。

そ の祝福がい素懶らしいものであるか、主は「あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見るのを楽しみにしていた。それを見て、喜んだのである」と表されました。使徒たちによりますと、アブラハムのみならず、預言者たちも神の御使いたちも見たいと願つていたものでした。何よりも神の御子もご自分の十字架がもたらすその祝福を見るのを喜んでおられたのです。私たちは今、その神のよいものを求めさえすれば、なんでも、いくらでも、与えられる恵みの時に生かされています。

キリストの真実なることばに照らされる自分の真実を聞き、それに眞実に応答し、与えられ、更に与えられる神の祝福に与つていきたいと願います。

# 詩篇119編を読む

## 今日のお知らせ

2023年度

### 教全體課題

協会共同訳 ツアデ（ヘブライ語の第1-8番目のアルファベット名称—この

I37節～I44節はヘブライ語聖書でツアデから始まつ

日々聖書に聴き、

イ語聖書でツアデから始まつてある。）

御言葉に従つて歩む。

一三七 主よ あなたは正しく

あなたの裁きはまっすぐです。

一三八 義と大いなる真実をもつて

あなたは定めをお命じになりました。

一三九 私の熱情は私自身を滅ぼすほどです。

私の敵があなたの言葉を忘れたからです。

一四〇 あなたの仰せは練り清められています。

あなたの僕はそれを愛します。

一四一 私は取るに足りない者で、侮られていますが

あなたの諭しは忘れません。

一四二 あなたの義はとこしえに正しく

あなたの律法は真実です。

一四三 苦難と苦惱が私に降りかかりました。

しかし、あなたの戒めは私の喜びです。

を飲んで成長し、教わるようになるためです。

（ペテロの手紙一 2章2節）

## 今後の予定

御言葉の分かち合いがあるため、本日は休会です。

○二月一四日 レント入り

○二月一八日 定例役員会

○三月 三日 総会準備のための教会員懇談会

○三月一〇日 定例役員会

○三月一七日 三月教会総会

○今週の水曜日から受難節（レント）に入ります。皆さまの状差しにレントのご挨拶を配布しました。

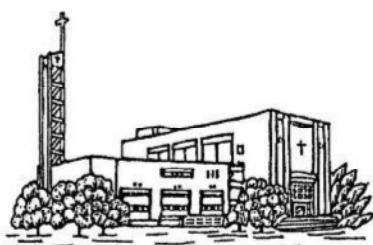
○礼拝後、讃美集会とみ言葉の分かち合いを礼拝堂で行います。

讃美歌 341番

## 『今日の讃美歌 現代語訳』

1. 主よ 清く澄んだ心をお与えください  
罪の縄目から私の身を解き放つてください
2. 清く澄んだ心に主をお迎えしましよう  
生きている宮として住んでください
3. 主よ 清く澄んだ心に注いでください  
御顔の光を 御恵みの清水を
4. 主よ 清く澄んだ心に授けてください  
優る力を 素晴らしい悟りを
5. 清く澄んだ心を主にお捧げてしましょう  
ますます栄える御名を永遠に称えつつ。

イースター献金袋を皆さまの状差しに配布しました。来年度の十分の一献金袋は例年通り三月総会の時に配布予定です。



## 『今日の子ども礼拝』

説教 「死んでも生きる」  
聖書 ヨハネ1章17～27節  
説教者 吉村和雄名誉牧師

### 『次週の礼拝』

● 子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「二番になりたい人は」

聖書 マタイ20章17～28節

説教者 吉村和雄名誉牧師

● 主日礼拝（午前10時30分）

讃美歌 137番 93番

説教 「人の後になり、仕える者になりなさい」

聖書 マルコ9章30～37節

説教者 宮間彰広兄





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 15番 341番  
 説教 「見えると言っているから罪は残る」  
 聖書 ヨハネ9章1~12節、  
       35~41節(新約 P.184)  
 司式 山下 純一 兄  
 聖餐司式 黄允湜 牧師  
 説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「前奏曲ハ長調」 J.S.バッハ

### ○讃美歌 15番

1. 我らのみかみは 天地すべます  
国々しまじま 喜びたたえよ
2. みいつの光は 世界をてらせり  
大地はかしこみ み前にふるえり
3. 誰かはさからう み神のみわざに  
誰かはなみする み神のみむねを
4. よろずの君らよ み前にひれふせ  
すべての力は み神のものなり
5. 天にも地にも み歌ぞこきゆる  
「われらの神こそ まことの神なれ」

アーメン

### ○聖歌隊による讃美

「いざ主をほめまつれ」 G.J.エルヴィー 作曲  
 いざ主をほめまつれ  
 喜びうたえ 主をほめよ  
 いざ正しき者よ  
 主をほめたたえ 歌いまつれ

感謝してほめまつれ  
 十絃(とおを)の琴かきならしつ  
 歌声あげ み神に謝して喜び歌え  
 新しきみ歌もて 喜びの声あげ  
 おごとをかきならしつ  
 いざ主をたたえまつり  
 ほめまつれ

### ○讃美歌 341番

1. きよけきこころを 主よ、あたえたまえ  
つみのきずなより この身をはなちて
  2. きけけきこころに 主を迎へまつらん  
活ける宮として うちに住みたまえ
  3. きよけきこころに 主よ、そぞぎたまえ  
みかおのひかりを めぐみの清水を
  4. きよけきこころに 主よ、くだしたまえ  
うえなるちからを たえなるさとりを
  5. きよけきこころを 主にささげまつらん  
さかゆく御名をば とわにたたえつつ
- アーメン

聖餐曲「きよけき心を」 J.S.バッハ

後奏曲 讀21-91「神の恵み豊かに受け」 D.ウッド

\*礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。